

第3回 健康しが共創会議 「新しい暮らし方」を考える ワーキングチーム

令和7年10月16日（木）

滋賀県総合企画部
県民活動生活課
県民活動・協働推進室

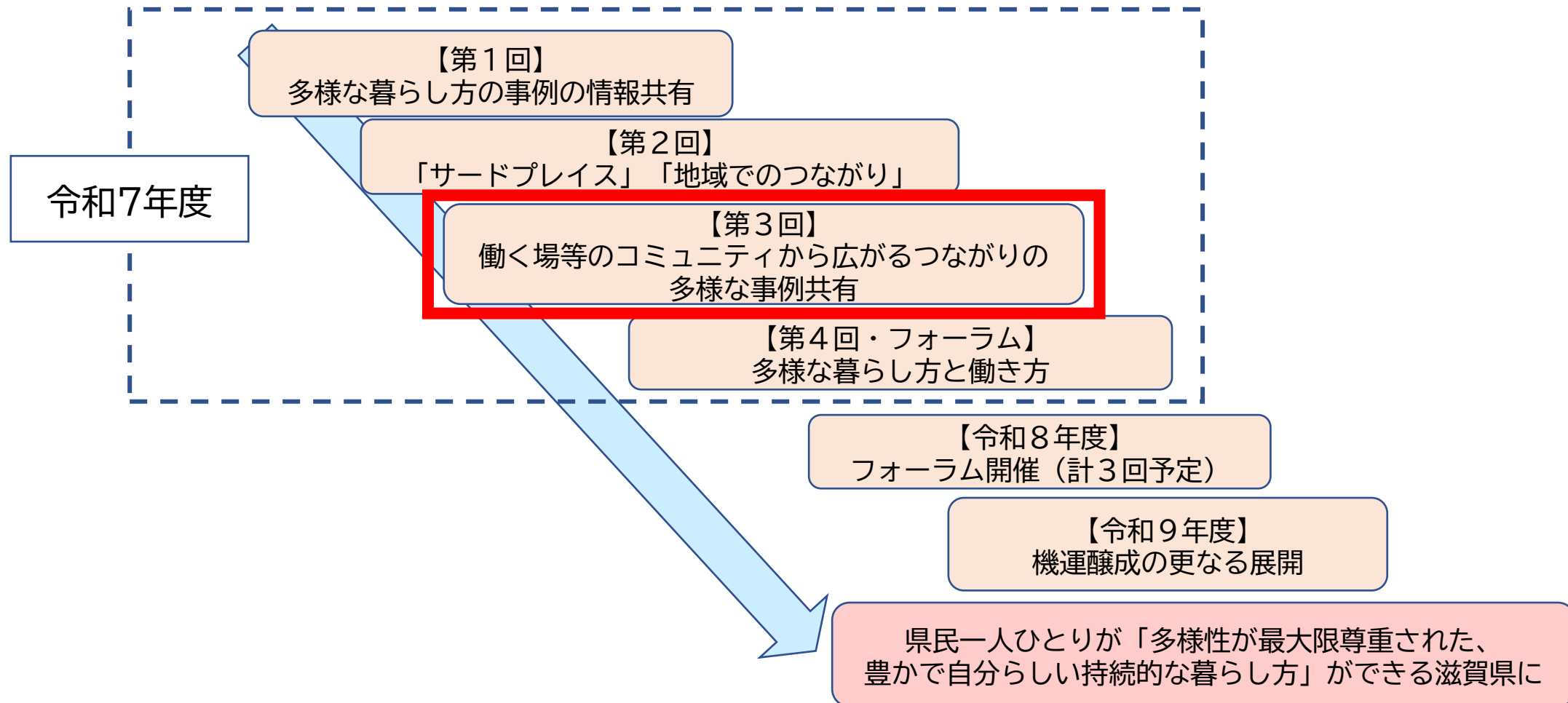
<本日のゴール> 働く場等のコミュニティから広がるつながりの多様な事例共有

～次第～

1. 事務局説明① 「新しい暮らし方」について、
第1回および第2回のふりかえり
2. 意見交換① コミュニティへの参加理由
3. 事務局説明② 企業等へのヒアリング結果の紹介
4. 意見交換② 多様な暮らし方につながる理想的な「働く場」
5. 事務局説明③ 暮らしと関わるコミュニティの関係について
6. 意見交換③ コミュニティで得た学び等の生かし方
7. 「新しい暮らし方を考えるフォーラム」の開催に向けて
8. まとめ・本日のふりかえり

「新しい暮らし方」について

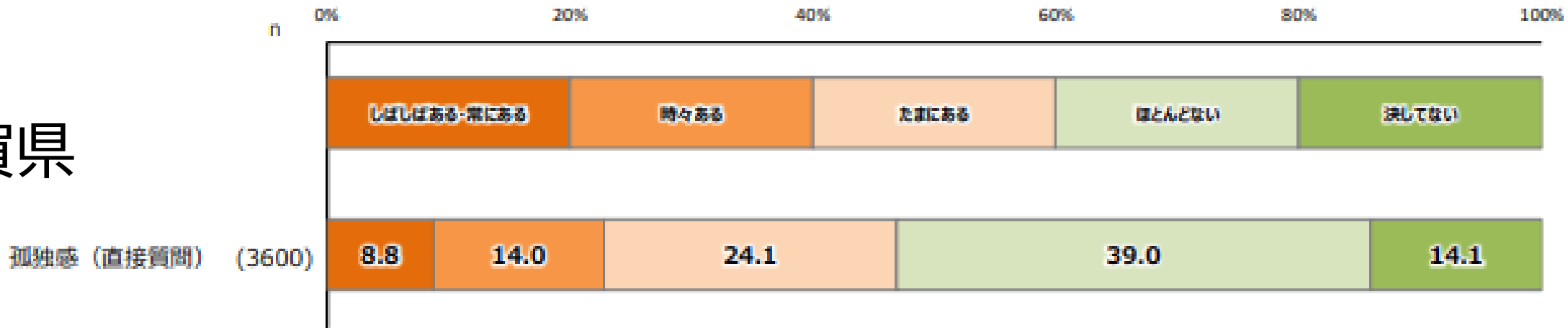
地域社会の過疎化や高齢化や、社会構造の変化による個人の孤独・孤立の高まり等を踏まえ、県では「多様性が最大限尊重された、豊かで自分らしい持続的な暮らし方」を一人ひとりがデザインできる社会をめざし、広く県民の皆様に多様な暮らし方の事例やその背景となる考え方などをお伝えしていきたいと考えています。



(参考)滋賀県および全国の孤独の状況について

「あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか」への回答

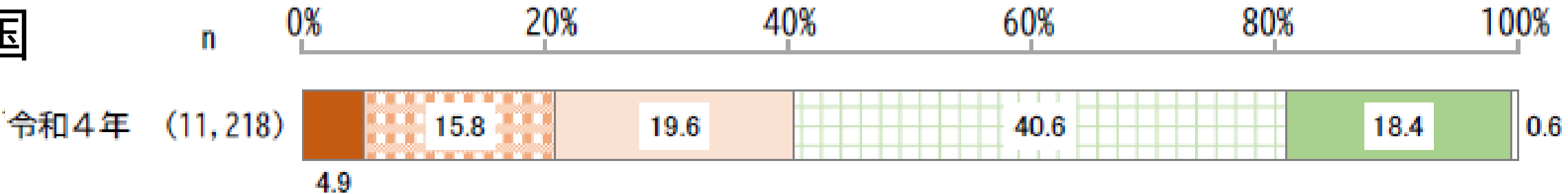
滋賀県



滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課 滋賀県版人々のつながりに関する基礎調査(令和4年)より

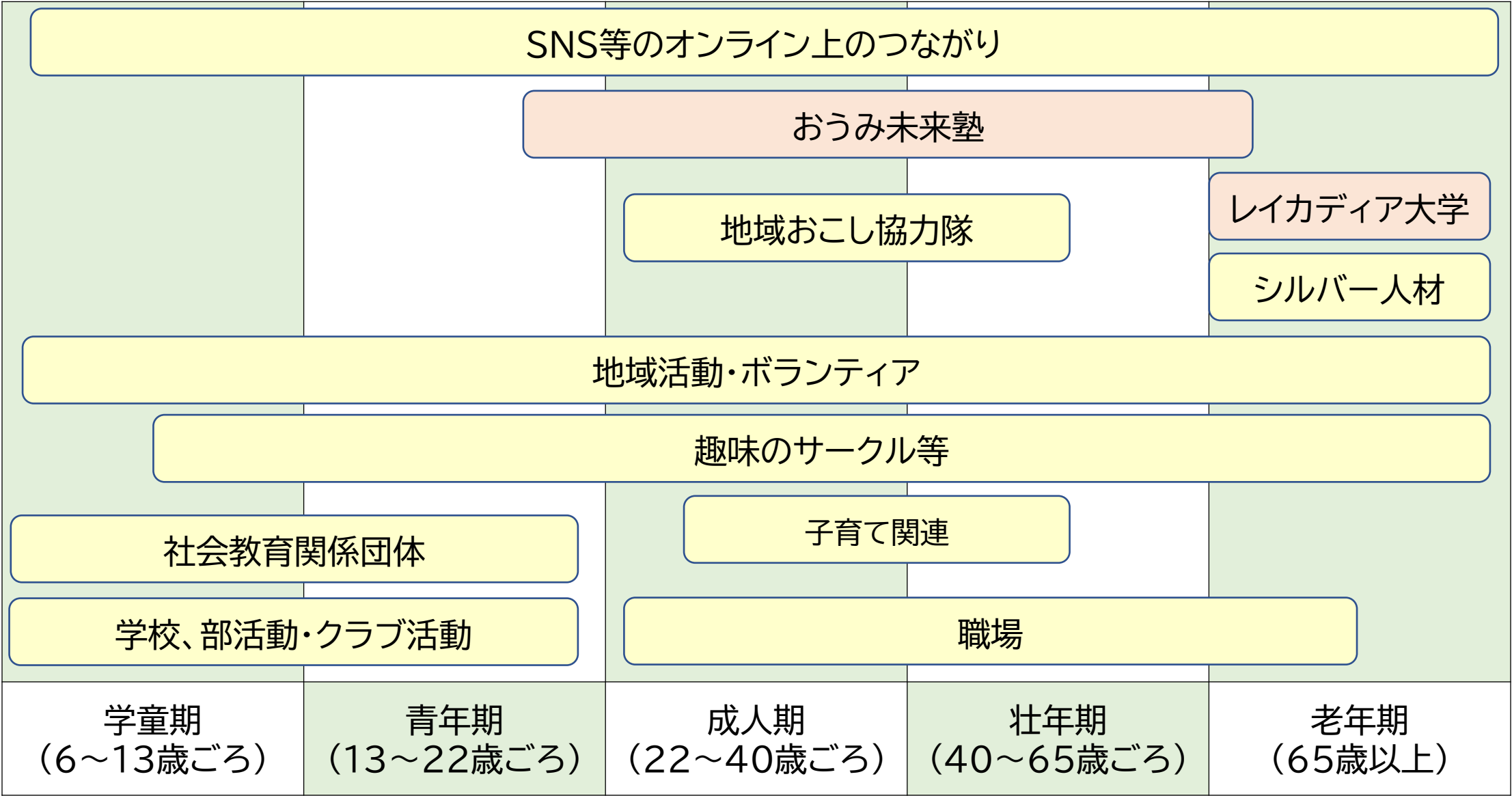
■ しばしばある・常にある ■ 時々ある ■ たまにある ■ ほとんどない ■ 決してない ■ 無回答

全国



内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査(令和4年)調査報告書より

(参考)ライフステージ別 新しいコミュニティとのつながりのきっかけイメージ



※ライフステージの区分は、エリクソンの年齢分類から抜粋

第1回ワーキングチームでの意見交換について

「自分の好きな暮らしを実現するために必要な環境・要素、また大事なことは？」

【人との「つながり」・コミュニティ】

- ・サードプレイスを持つこと
 - 心の健康、新たな出会いや発見につながる。
- ・地域のことにみんなで協力して取り組む中で、自分の役割を果たすこと
 - それぞれが自分の役割を果たすことによって、地域の課題解決につながっていく。
- ・多様性を大事にする一方で、お互いに認め合って何か一つ共通のものを見つけていくこと
- ・みんなと一緒にコミュニティを作ること、仲間を作ること

【情報発信・周知、機会】

- ・広く情報発信すること
- ・情報を求めている人に必要な情報を届けること
 - ・個人の選択機会拡大につながる。
 - ・やりたいことにチャレンジできる機会。

【生活基盤】

- ・職場環境、収入、身体・心の健康
- ・地域の持続性

【マインド】

- ・「自分と対話」する時間 → 自分が幸せに感じるときはいつか、自分らしいとは何かを考えることが大事。

第2回ワーキングチームでの意見交換について

居心地の良いサードプレイスとは？

- ・自分自身が必要とされている、何らかの役割を果たしていることが確認できる場所
- ・高齢化社会での必要なもの・孤立防止や仲間づくり、趣味・交流が生きがいになる
- ・無理なく自然体で入って受け入れてもらえる
- ・自由参加型の場→行っても行かなくてもいい、安心して過ごせる空間
- ・滋賀県全体を“みんなのサードプレイス”にしたいという意見も！
 - ➡ そのためには、“滋賀らしさ”のある交流の場(オンライン・オフライン問わず)がどんどん増えて、みんなが参加しやすくなっていくことが必要

地域でのつながりをつくり、保つために大切なことは？

- ・生活と地域が密着していることで窮屈に感じてしまう人には、関係人口として細くても長く続く関係性もいいかも
- ・仲間と経験を共有できる場が鍵
- ・強制ではなく出入り自由な風通しのよいコミュニティ
- ・魅力的な活動を継続し、「見える化」・発信でリピーターや関係人口を増やすこと
 - ➡ 琵琶湖システムの中心的な取組である「魚のゆりかご水田」のイベントには、東京からの来訪者も！

従業員や生徒が地域と繋がりを作るために、職場・学校にどんな可能性があるか？

- (企業)・やらされ感ではなく、従業員一人ひとりの特技や興味を生かして自然体で参加できるよう後押し
 - ・自発的な地域活動への参加を、人事評価の指標としたり、有給休暇を使う大義名分として従業員にPR
 - ➡ 自治体が、地域活動貢献企業認定や表彰の制度を用意すれば、企業も従業員の後押しがしやすくなるのでは
 - また、どんな地域活動があるかを見る化し、企業に発信することも重要
- (学校)・ほとんどの学校がコミュニティスクールで地域とつながり、「ジュニア民生委員制度」「湖北未来プロジェクト」のように生徒が主体的に地域活動に関わる機会を提供している学校も
 - ➡ 担当教員に負担がかかっていることもあるため、行政、企業や地域団体とつながって持続可能な取組も必要では

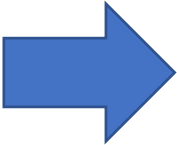
意見交換① コミュニティへの参加理由

どのようなコミュニティにどのような理由で参加されていますか。

企業等へのヒアリングについて

区分	サステナビリティ活動等の取組	制度認定(※)				社風 (または従業員育成の取組等)	従業員が多様な視点を得るための きっかけづくり
		①	②	③	④		
文房具メーカー	ヨシ刈りボランティア	○	○			・将来に向けた、各階層別の教育研修を実施	環境意識の向上を図るため、ヨシ刈りボランティア参加を従業員に告知
害獣・害虫駆除用品メーカー		○		○		・経営層と距離が近い。 ・ボトムアップ経営で従業員が挑戦しやすい環境。	・Wワーク、副業許可 ・親睦会費助成制度 ・社内報 ・資格取得補助
産業廃棄物処理事業者	・森林ボランティア(森林づくりパートナー制度) ・ヨシ刈りボランティア ・小学校への出前授業		○	○		・社員だけでなく社長との距離も近く、親しみやすい雰囲気。 ・将来のキャリアに応じた研修受講の呼びかけ	・森林組合の方との交流会(家族参加可) ・森林保全と従業員の健康増進イベントの開催(ウォーキング等)
生活協同組合	・森林ボランティア(森林づくりパートナー制度) ・稲刈り食育イベント	○				・組織の持続性を高めるために、人を育てる、特に若い従業員がビジョンを持てるようにとの思いが根付いている。	・自己啓発制度(ボランティアに係る交通費負担)
化学メーカー	・里山保全活動ボランティア ・地域の清掃ボランティア			○	○	・自由な雰囲気がある。	・一部のボランティア活動の家族参加可 ・公的資格取得時祝金、通信教育修了補助等

※ ①滋賀県WLB推進企業登録制度、②滋賀県女性活躍推進企業認証制度、③健康経営優良法人2025、④くるみん認定(次世代育成支援対策推進法)

 ほとんどの企業が「滋賀県ワーク・ライフ・バランス推進企業登録制度」や「健康経営優良法人」等、従業員の働きやすさと生活の充実につながる制度認証を受けており、風通しがよい社風に加え、従業員が多様な視点を得るためのきっかけづくりとなるようなユニークな取組をされていました。

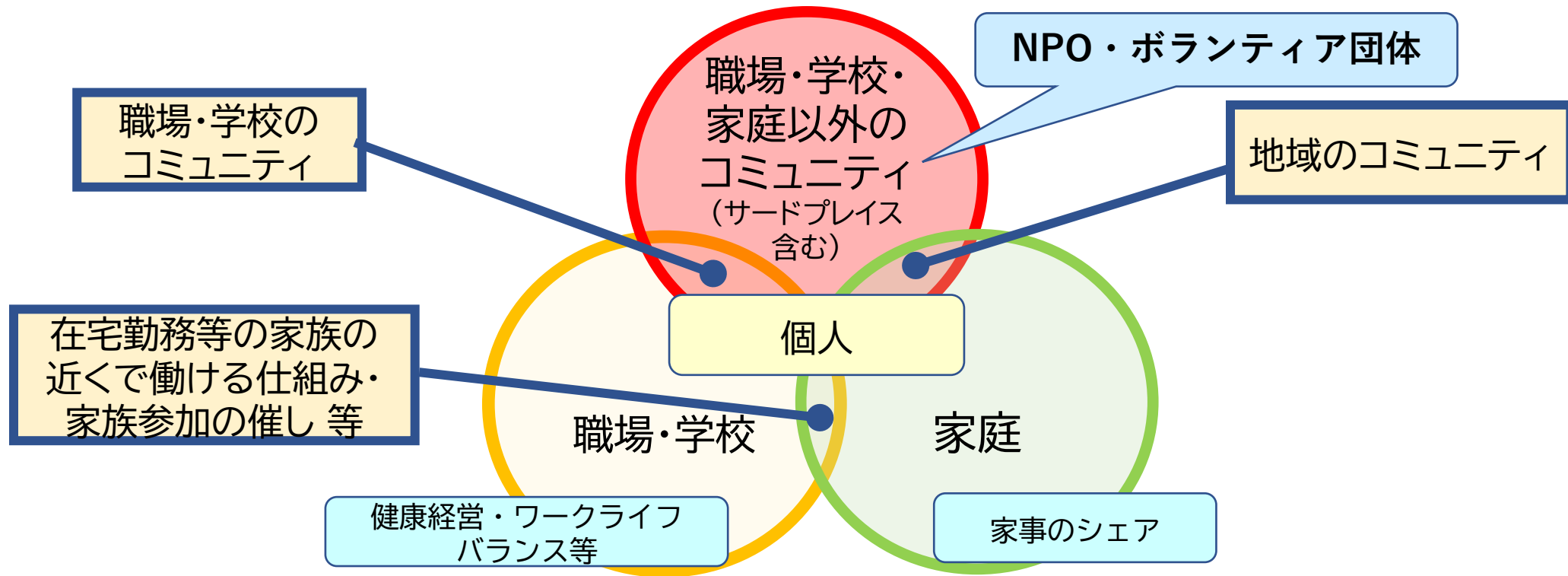
意見交換② 多様な暮らし方につながる理想的な「働く場」

多様な暮らし方につながる理想的な「働く場」のイメージを教えてください。

暮らしと関わるコミュニティの関係について

ヒアリングを実施した企業の従業員の方の中には、自身の仕事についての興味から交流会等の別のコミュニティに参加し、関わるコミュニティを増やしておられる方がいました。

また、これまでヒアリングを行った多様な暮らし方をされている方も同様に、その方の思いや興味から関わるコミュニティを増やしておられ、それぞれのコミュニティでのつながりがうまく交わっていることがわかりました。



・「人とコミュニティのつながり」が、「コミュニティとコミュニティのつながり」になることも。

意見交換③ コミュニティで得た学び等の生かし方

働いている中で得た学びや気づきを仕事以外のコミュニティの中でどのように生かしておられますか。

または、仕事以外のコミュニティで得た学びや気づきを、仕事も含めた暮らしの中でどのように生かしておられますか。

「新しい暮らし方を考えるフォーラム」の開催に向けて

1 次回(令和8年2月上旬)開催予定のフォーラムについて

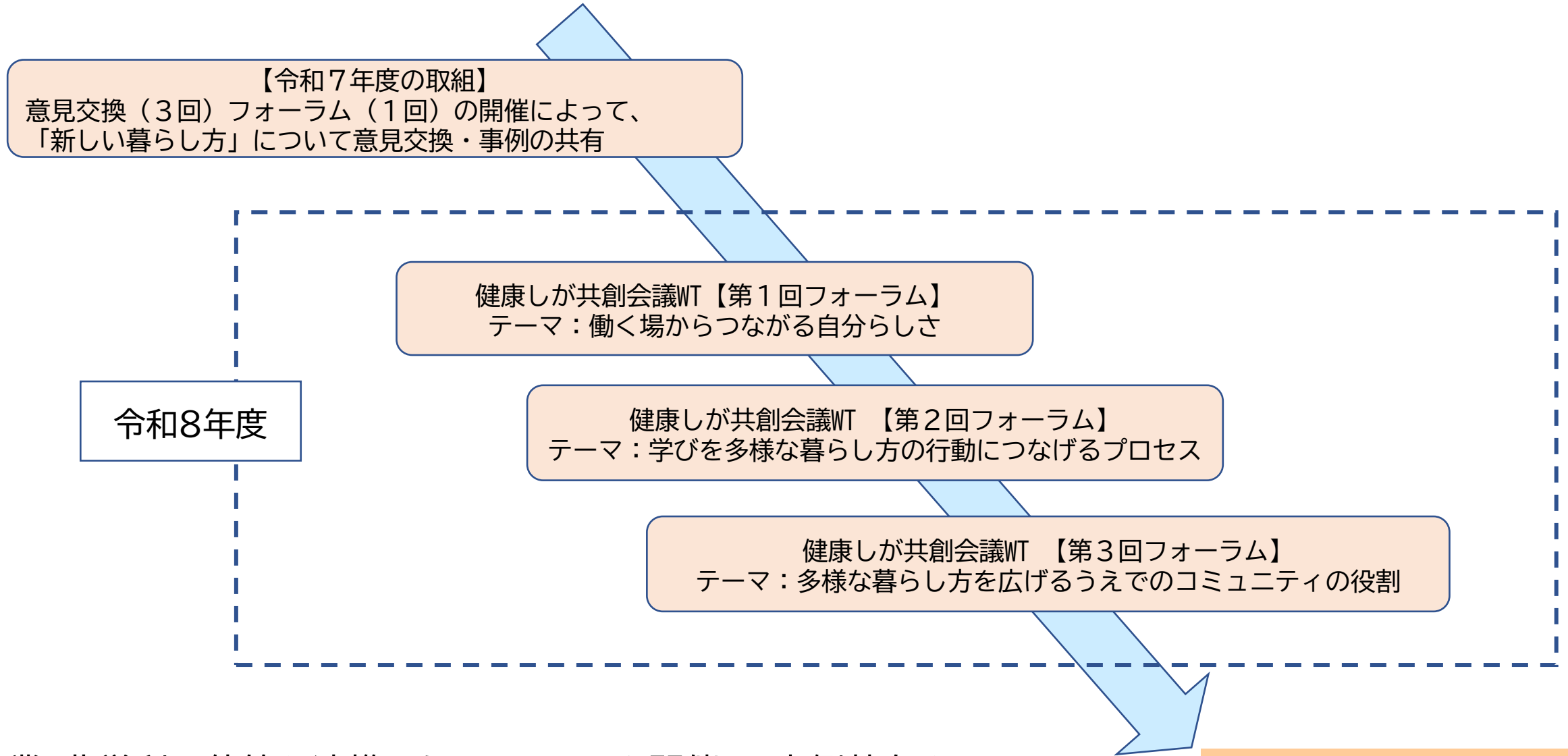
テーマ(案)	多様な暮らし方と働き方
内容(案)	<div>(1)「新しい暮らし方」を考える背景について</div> <div>(2)多様な暮らし方のきっかけ、事例の共有 → 多様な暮らし方をされている方からの事例共有</div> <div>(3)従業員を大切にせる企業等の多様な働き方の事例共有と多様な暮らし方との関係性 → 企業および従業員の方からの事例共有</div> <div>(4)今後に向けて</div>

ワーキングチームの参加者、ヒアリングにご協力いただいた方に、ご登壇をお願いしたいと考えております。

2 令和8年度に開催予定のフォーラムについて

テーマ(案)	概要(案)
働く場からつながる自分らしさ	企業・団体の多様な働き方と暮らし方との関係をみつめ、多様な暮らし方を広げるための具体的なヒントや事例を共有する。
学びを多様な暮らし方の行動につなげるプロセス	学びから自発的な活動につながっている様々な世代の事例を通し、多様な暮らし方のきっかけづくりについて深めていく。
多様な暮らし方を広げるうえでのコミュニティの役割	コミュニティの場をつくり、広げている方々の事例の共有を通して、多くの方々が一歩を踏み出してもらうきっかけづくりを考える。

「新しい暮らし方の提案」の今後の進め方について



企業・非営利団体等と連携したフォーラムを開催し、事例共有や
情報発信により、県内に広く「新しい暮らし方の提案」を行っていきます。

引き続き、企業・非営利団体等と
連携した幅広い情報発信を通して
「新しい暮らし方の提案」を行う

LINEオープンチャットについて

皆様と新しい暮らし方について、ワーキングチームの時間の外でも意見交換ができればと、本ワーキングチームの「LINEオープンチャット」を立ち上げています。

LINEのご登録をされている方につきましては、こちらで情報交換ができればと思いますので、ご登録をいただくと幸いです。



・オープンチャット「新しい暮らし方」を考えるワーキングチーム」

https://line.me/ti/g2/IQlu0Zl4tpfngdY-sWTqsq7lvcLMZJRUolbKVA?utm_source=invitation&utm_medium=link_copy&utm_campaign=default